

令和 元 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

| | |
|---|-------------------|
| 4 | 十分達成できた |
| 3 | 達成できた |
| 2 | 取り組んでいるが、成果は十分でない |
| 1 | 取組が不十分である |

◎ 評価Ⅲの基準

| | |
|---|---------------------|
| 4 | よく取り組んでおり、成果が大きい |
| 3 | 熱心に取り組んでおり、今後の期待できる |
| 2 | 取り組んでいるが、成果は十分でない |
| 1 | 取組が不十分である |

◎ 評価Ⅳの基準

| | |
|---|-----------|
| A | 優れている |
| B | 適切である |
| C | おおむね適切である |
| D | 要改善 |

尼 崎 市 立

尼崎高等

学 校

令和元年度 学校評価

[各校の重点取組について]

『生きる力』の理念に基づく知・徳・体の総合的な育成を目指し、本校の特色である「文武両道」を極める。

(未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成を目指し、より良い社会を作る人材の輩出に努める)

学校教育に関する重点取組

| 1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
|--|---|----------|
| <p>(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する</p> <p>(2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する</p> <p>(3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する</p> <p>(4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る</p> | 3.1 | 3 |
| 取組とその成果 | 課題と改善策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究推進委員会が中心となって、主体的・対話的かつ深い学びを目指した学習指導方法の研究を、授業また「総合的な探究の時間」で実現すべく研究を進めている。 ・ 進路実現のため、目標を早めに設定させ、計画を立てさせ、模試や補習を活用しながら、目標へ近づく努力をしてきた。自己マネジメントできる生徒が増え、学習意欲も上がり、少しずつ成果が現れた。 ・ 特別支援教育コーディネーターを中心に、インクルーシブ教育についての研修を行い、また配慮が必要な生徒の支援計画を立案し、学校として方向性をもった支援ができるよう工夫している。 ・ 体育科の授業では、学年や課程ごとに無理のない指導計画を立案し、また新しい指導法、新しい種目も積極的に検討、導入し、生徒の健康な身体づくりを目指すとともに、体育科全国大会において先進的な取組として参加校の教員に向けて紹介した。 ・ 部活動において、「文武両道」の精神に基づき、学業にも力をいれて、「知徳体」のバランスが取れた人間形成を目指すよういっそうの努力をした。また、部員1人1人のコンディションや能力に合わせた指導をどの部も心がけるようにした。 ・ 体育科全国大会での発表のために研究を積み重ねることができた。アクティブラーニングを授業に取り入れ、自ら学び考える工夫をすることができた。また、ICTを活用し明確な課題発見につながる授業を行うことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒自身がさらに考え、計画性や実行力が身につく指導を、さらに早期から行う必要がある。 ・ 外部講師を招いた研修等が今年度は実施できなかった。主体的・対話的かつ深い学びを実現し、新しい時代で活躍できる人材育成を行っていくために、さらに真剣かつ継続的な取組が必要である。 ・ 特別支援教育コーディネーターを中心に、配慮の必要な生徒に対する支援の方法や評価の工夫など合理的配慮についてのさらなる研修が必要である。 ・ 部活動指導においては、ケガ防止のための取組、ノ一部活動デーのさらなる導入など引き続き工夫、改善が求められる。 ・ 運動能力や体力の増進の観点からの食育を進めているが、家庭の理解と協力を求めるためには、保護者への丁寧な説明が必要である。 ・ 体育においては、運動の時間と対話の時間の確保が課題である。バランスの良い時間配分と年間計画が必要である。 | |

| | | |
|--|---|------------|
| <h2>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</h2> <p>(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る</p> <p>(2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める</p> <p>(3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もがすごしやすい学校の環境づくりに努める</p> <p>(4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する</p> | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校 園 長) |
| | 2.8 | 2.5 |
| <p style="text-align: center;">取組とその成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻が目立つ生徒に対しては早期に家庭と協力して改善されるように指導した。また、保健部による心身を健康に保つための啓発活動、不調を訴える生徒へのケア等きめ細やかなサポートを行った。 個人面談、3者面談を行い、悩みや不安改善に取り組んだ。日頃からの声かけに注意して、よりよい学校生活を送ることができる安全な環境作りに努めた。 クラス、部活動などで良好な人間関係が築かれるよう、1人1人を大切に集団づくりを目指し実践した。また、法の遵守、善悪の判断、思いやりのある行動など、道徳性の高い生徒を育てていく努力を怠らなかった。 人権学習では考えを押しつけるのではなく、自らが積極的に考え、発言し、道徳や人権に対して、優しさや慈しみをもって考えることができる生徒が増えてきた。 カウンセリング委員会を定期的に開催し、生徒全体あるいは個人の情報について共有を深め、いじめ等の早期発見に努めた。 人間関係に問題が生じた時は、管理職、学年、生徒指導部、養護教諭等が連携し、組織的な対応を行った。家庭との連絡も密に行った。 ボランティアに係わる体験的な学習等を行うとともに、教育活動全体を通じてキャリア教育が推進されるよう、生徒1人1人の目標、人生設計を大事にした、計画的なキャリア教育、進路指導を実践した。 | <p style="text-align: center;">課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠席が増えてきた生徒、心身の不調を訴える生徒に対して、より一層の早期からの支援体制を築くことが必要である。 カウンセリング委員会で挙げられた生徒情報を、関係する教員間で共有し、早期から支援していくシステム作りが急務である。 問題が生じた時の外部機関との連携方法については一層の研究が必要である。 何かを感じ取った時に、そのままにせず、教員間で共有し、保護者に連絡する体制をさらに固めていく必要がある。 早朝、有志による学校周辺の清掃ボランティアを継続して実施している。全校的に広めていくのが、次の課題である。 生徒の自己有用感、自尊感情を高め、いじめの未然防止に努め、いじめを許さない学校づくりに努める。 | |

| | | | |
|---|---|----------|----------|
| 3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む | | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
| (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する | | 2.7 | 3 |
| 取組とその成果 | 課題と改善策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 計画的な研修を実施し、教職員の資質向上を図るとともに、連携の仕方を工夫し、組織的に何事にも対応していける学校にしていく。 業務改善の観点から大胆に「スクラップ&ビルド」に着手する。また、定時退勤日を設け、ノ一部活デーも取り入れていく。 地域のイベントに生徒会や部活動等が積極的に参加し、貢献した。運動部は地域の小中学生との交流を行い、吹奏楽部など文化部は地域から重宝がられる存在でもある。 部活動の中で、高大連携の一環として、理工学部の研究室にて、大学生や教授の指導の下、実験や観察を行い、生徒たちも新たな目標ができ、学習意欲の向上など成果が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> 若手教員がさらに積極的に学校運営に参画でき、活躍できるような環境作りが必要である。 職員研修を計画的に実施できたが、幅広いテーマ設定を行うことができなかった。 業務改善の観点からの「スクラップ&ビルド」に関しては進展が見られなかった。定時退勤日の会議等は勤務時間内に終わるよう工夫した。ノ一部活デーに対する意識は高くなっていきつつある。 教員が疲弊感を感じながらも、学校に対する周囲からの期待がありスクラップが進んでいない。さらなる外部人材の活用等が求められる。 地域との距離が狭まることはよいことではあるが、地域からの要望や要請が増えると、業務量の負担増につながる懸念される。 | | |

| | | | |
|--|---|----------|----------|
| 4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る | | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
| (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る | | 3.1 | 3 |
| 取組とその成果 | 課題と改善策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 教育活動全体を通じて安全教育を行った。特に、自転車指導や電車内指導は常に行っている。校内の駐車場指導において、安全確保の方法を身につける指導も行った。 防災訓練を通して、自らの命を救う行動、他人の生命を守る行動、各場所から安全に避難する方法を指導できた。 校内安全衛生委員会等で、定期的に校内施設の安全点検および危険箇所の早期発見、修繕等対策に努めた。 教職員全員がAEDの操作に慣れるように、講習等を積極的に受講するなどして、生徒の安全を確保する努力をした。 防災訓練、防災講話などで、大規模災害時には、「自分の命は自分で守る」「皆で支え合う」ことが大切であるという意識を持たせた。 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員も生徒も1人1人の危機管理意識をさらに高める必要がある。そのための計画的な研修、学習を工夫して実施していく必要がある。 定期的な校内の施設点検に加えて、全教職員からの校内施設の破損箇所および要修繕箇所情報をさらに収集し、計画的に修繕する必要がある。 登下校中の自転車事故が多かった。事故を起こさないようにするための指導がさらに必要である。また、事故の際の対応の仕方についても具体的に指導しておく必要がある。 総合避難訓練や震災記念行事等で、大規模災害時には、「想定にとらわれるな」「最善をつくせ」「率先して避難者になれ」ということを意識づけたが、行動化させるための取組が必要である。 | | |

| | | | |
|--|--|----------|---------|
| 教育目標 一人ひとりの生徒を大切に、充実した学習活動を生き生きと展開し、自主自律の精神に富んだ心豊かでたくましい人間の育成をめざす | | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校長) |
| | | 3.0 | 3 |
| (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実 | | | |
| 取組とその成果 | 課題と改善策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 「人間尊重の精神に徹し、一人ひとりを大切にする人間の育成」のために困ったとき生徒が相談しやすい環境を整え、いじめ、体罰の根絶を目指し、啓発・研修に取り組んだ。 ・ 一人ひとりの生徒を大切にしていこうという思いを教職員で共有できた。そのことにより、生徒の悩みやトラブルに対して組織的に丁寧に対応していくことができた。 ・ 自己評価、他者評価、全体評価など多角的な評価により、授業への向上心を育てられた。また、全国平均などの数値を励みにして、教員が高い目標を持って学習指導に取り組むことができた。 ・ 体育に関する知識や高度な運動技能の習得を通じて、知・徳・体の調和の取れた人間形成を目指すとともに、体育・スポーツの振興に寄与する態度を育てる」ために一人ひとりの状況に応じた適切な指導を行い、運動部としての競技実績の向上に努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生じた問題に対してどのように解決を図っていくかについても研究、研修が不十分である。怪我、事故、問題行動、いじめなど様々な問題に対して、どの教員も対応に対する正しい認識を持ち、組織的に実施していけるような体制づくりが求められる。 ・ 学校全体のうねりにはなりきれていないが、学校周辺の清掃ボランティア等に自発的に取り組む生徒も出ている。今後の広がり期待したい。 ・ 「知・徳・体」のバランスの取れた人間形成を目指していこうという体育科の原点を確認することができた。競技実績に関しては、その延長線上にもたらされるものであり、実績ばかり追い求めないように、指導者も周囲も留意しなければならない。 | | |

| | | | |
|---|---|----------|---------|
| 研究テーマ 人権尊重の精神に立って、2度と体罰が起きない、また常に生徒の安全を最優先する、安心できる学校づくりの推進 | | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校長) |
| | | 3.0 | 3 |
| (1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実 | | | |
| 取組とその成果 | 課題と改善策 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通じた計画的な研修を実施する。関連法令、責任問題、生徒への影響などの基本的理解から、具体的事例を扱うもの、ロールプレイなど様々なテーマ、方法にて実施する。研修記録等は随時ホームページで公表する。 ・ 管理職による教員との面談を通して、指導上の悩みや困難に対する指導、助言を行う。ベテラン教員が若手教員の相談に乗りやすい職場の雰囲気を作る。 ・ 管理職による部活動、生徒指導場面等を巡回し、必要に応じて指導を行う。 ・ 相談窓口(管理職、事務職員、養護教諭、カウンセラー、相談箱等 複数の窓口)を設置し、生徒・保護者が不適切な指導ではないかと感じたときに、気軽に相談できる窓口を設置する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修に関しては、計画的に体罰防止研修を行うことができた、今後はさらに「いじめ防止」「問題行動対応」「保護者対応」などテーマを広げていくことが求められる。 ・ 管理職による教員への面談は計画的に、また臨時的に実施することができた。今後は、さらに指導で困難を感じる事があれば早期に相談してこられる雰囲気作りが必要である。 ・ 管理職による巡回は、時間があるときに行うように努めたが、定期的に行うことができるような工夫が求められる。 ・ 相談窓口への相談はほとんどなかった。体罰防止への取組の成果であるとも言えるが、さらに相談しやすい雰囲気作りが必要である。 ・ 深刻な事態が発生してから一定期間は気をつけるが、時間がたつて意識が緩んだり、風化していつまでもならないような、2度と体罰を起こさないための取組が必要である。 | | |

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

| 学校関係者意見等 | 評価Ⅲ |
|---|-----|
| <p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>・グローバル化、多様化がすすむ今日、このような時代に力強く生きていける力(考える力)を育成したい。 ・外部講師を招いた研修・セミナー等は生徒の刺激になり回数を増やしていただきたいです。特に協調性(チームワーク)やコミュニケーション能力を養う教育は今後社会で必要ですので、早い段階から取り入れていただきたいと思います。 ・生徒の学力は入学時より学年が上がる毎に成績も上がっている。これは、平素の先生方のきめ細やかな指導が実って、成果が出ている。朝、放課後の補習等、生徒と先生が個別に指導されている姿は市尼の先生方の熱心な姿勢を伺うことができます。(生徒たちの自信に繋がっていると思います。)体育科については進学率、クラブの戦績もよく「文武両道」が現れています。</p> | 3.3 |
| <p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>・あきらめない心、人を思いやる心、自分を大切にすることを育み、これからの社会に必要な人間になってほしい。 ・1年生から、さまざまなテーマの人権学習を実施しているとお聞きました。引き続き継続してください。 ・SNS関連のトラブルを多数お聞きしますので、特化した研修会やセミナーを実施することも考えていただきたいです。 ・市尼の生徒は基本的な生活習慣も、学年が進むにつれて良くなっていると思われます。精神的、身体的に悩んでいる生徒が増えてきていますが、特に義務教育時に心の病に多くの児童・生徒がいることを、義務教育の現場で担任から聞くことも多くあり、家庭との連携も難しくなっており、現在の高校生もそのまま上がっている状況が見られます。家庭との連絡を密に頑張っていたきたい。</p> | 3.3 |
| <p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>・他校種との交流を深め、地域のおこがれであってほしい。それがキャリア教育のものなると考える。 ・高校等の職場環境はブラック企業とお聞きしたことがあります。予算の関係もあるでしょうが、外部人材を雇い少しでもノー部活デー、ノー残業デーを増やしていただければと思います。 ・市尼は市民にとって、市を代表していることが浸透しています。期待が大きく、反社会的問題行動等を起こさないような努力を教職員が一枚岩になる努力が必要ではないかと思えます。</p> | 3.3 |
| <p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>・安全、安心な学校にするには、学校の職員のチームワークも重要だが、地域ぐるみ、生徒の意識改革も必要だと考える。 ・自転車安全運転指導を引き続き実施し、今後も交通安全への意識向上をお願いします。 ・AED及び救急救命の講習会、避難訓練も引き続き実施し、救急救命時の対応や防災意識の向上をお願いします。 ・阪神・淡路大震災を知らない生徒たちに、経験した先生たちが伝承することも大切であると思えます。間違いなしに、南海大震災は起こると言われています。自分の命を守ることは他人の命を守ることに繋がるとを伝えられたら良いと思います。</p> | 3.1 |
| <p>■教育目標 一人ひとりの生徒を大切に、充実した学習活動を生き生きと展開し、自主自律の精神に富んだ心豊かでたくましい人間の育成をめざす</p> <p>・価値観が多様化する中で、“何が真実か”、“何が必要か”等、考える力をつけてやってほしい。 ・引き続き、生徒が相談しやすい環境を整え、いじめ・体罰を根絶するための啓発・研修をよろしくお願いいたします。 ・普通科・体育科と教育目標を設定していますが、各先生方は達成度について自己評価されているのでしょうか？正規の先生・新任の先生・常勤講師・時間講師・実習助手も生徒から見れば皆、プロの先生です。プロ意識の持てない教員がいれば、たくましい人間育成も達成が難しいのではないのでしょうか。</p> | 3 |
| <p>■研究テーマ 人権尊重の精神に立って、2度と体罰が起きない、また常に生徒の安全を最優先する、安心できる学校づくりの推進</p> <p>・管理職と職員、職員と生徒の間に風通しが良く、情報や悩みが共有されることが必要だと思う。 ・計画的な研究を実施し研修内容等をホームページにて公開することや、複数の窓口の設置など、さらなるオープンな学校を目指してください。</p> | 2.9 |
| <p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p> | 評価Ⅳ |
| アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か | B |
| 自己評価の結果の内容は適切か | B |
| 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か | B |